

新しい年を迎え、皆さまいかがお過ごしでしょうか。年末から年始にかけての9連休では、勤務が続いた先生方もいらっしやっただかと思ひます。小児科病棟もあわただしい日々が続きましたが、無事に乗り越えることができ、ほっとした年明けとなりました。

本年も、お互いに支え合いながら、皆さんが元気に診療にあたることができる一年になればと思ひています。それでは2026年初の小児科通信をご覧ください。



## ～1月の医局行事報告～

### 1月 八幡地区小児科医会新年会

北九州市八幡地区の小児科医が集まり、新年会が開催されました。

今年も、開業医の先生方をはじめ、JCHO九州病院、北九州市立八幡病院、当院の先生方など、多くの先生方が参加され、大変盛り上がる会となりました。他施設の先生方とゆっくりお話しすることができ、改めて八幡地区全体で小児科医療をさらに良くできるように取り組んでいきたいと感じる機会となりました。

### 1月 膠原病グループのクリニカル・カンファレンス

「スティル病の最近の話題～全身型JIAと成人発症スティル病は本当に同じ疾患か～」のテーマで伊藤先生によるクリニカル・カンファレンスが行われました。

スティル病は発熱、皮疹、関節痛の3徴が高度な全身性炎症所見を伴い生じる自己炎症性疾患であり、小児科一般臨床では遷延する発熱などで鑑別に挙げられます。成人と小児とでは、判明している病態の多くが共通しており、2024年欧州リウマチ学会の推奨でsJIA（全身型若年性特発性関節炎）とAOSD（成人発症スティル病）が同一疾患であることが明記されました。しかし臨床現場では異なった印象もあります。今回のカンファレンスでは、スティル病の解説と症例提示を通してsJIAとAOSDの異同について勉強しました。途中途中にQRコードを用いたライブ投票があり、皆が参加できるカンファレンスとなりました。

## 1月 齋藤祐介先生によるセミナー

「ゲノムと代謝研究で挑む難治性白血病 — 分子病態から治療薬創出へ —」のテーマで齋藤祐介先生によるセミナーが行われました。

小児急性骨髄性白血病は新規薬剤の導入により治療成績が向上している一方、依然として難治例が存在しさらなる新規治療法の開発が求められています。齋藤先生は白血病研究に携わって18年間、白血病（幹）細胞がどのように代謝を変化させ、抗がん剤抵抗性を獲得するのかという問いに向き合ってこられました。セミナーでは、白血病細胞が生存に有利となるようエネルギー代謝を再構築する仕組みと、それを標的とした新たな治療戦略の開発についての紹介、造血器腫瘍パネル検査の診断・治療・研究における応用方法をご説明いただきました。さらに、これまでの研究で経験された多くの失敗を踏まえ、研究テーマの見つけ方、臨床医として研究を始め継続するための工夫、そしてキャリアの中で研究をどのように位置づけるかについて、ユーモアを交えてお話しされました。

## ～1月の小児科病棟の様子～

今年度から保育士さん2名体制となり、プレールームでは制作活動や遊びの会が定期的開催されるようになりました。新型コロナウイルス感染症流行期には、プレールームは閑散としていましたが、今では毎日子どもたちの笑い声が聞こえる場所となりました。

また、クリーンルームでも、遊びの会がひらかれ、お友達と遊ぶ姿が見られるようになりました。

1月末からは、様々なイベントが企画されていますので、次号でご紹介させていただきます。

## ～1月2月の医局内イベント～

学生さんの中には、小児科通信を読んで学会参加してくれた方もいらっしゃいます！興味のある方は、ご連絡をお待ちしております★

- |    |                      |
|----|----------------------|
| 1月 | 小児科同門会               |
| 2月 | 腎臓グループのクリニカル・カンファレンス |
| 2月 | 新生児グループのセミナー         |

★クリニカルカンファレンスとセミナーはZoom参加出来ます。参加してみたい方は、守田 (h-rita@med.uoeh-u.ac.jp) までご連絡ください。

## ～小児科専門医合格おめでとうございます～

村川先生、煙草谷先生、  
小児科専門医合格おめでとうございます。

ここからが新たなスタートですね。  
今後のさらなるご活躍を期待しています。



## ～医局員からのメッセージ～

初めまして、医師 3 年目、小児科修練医 1 年目の佐藤峰輝です。4 月に入局し、病棟(B 班)→NICU→病棟(A 班)と回っております。どの班においても上級医の先生方のお力添えのおかげで研鑽に励めており、感謝の日々です。

専門医取得後の進路に関してはまだ決めかねていますが、この一年間で数多くの症例や、研修医の頃には想定もしていなかったような希少症例も経験し、少しずつではありますが自分の中で進路が見え始めてきたところです。特に新生児科においては、知識・経験ゼロで回り始めましたが、例年類を見ないような件数の症例を経験でき、4 か月目ごろには自信を持って手技に望めるようになったことは自分の中で大きな成長と自負しております。毎月の北九州総合病院での救急当直においても、4,5 月の頃と比較して、(ある程度)自信を持って対応できるようにはなりました。それでもやはり重症疾患がいつ運ばれてくるかわからないため当直中は怯えていますし、当直明けにあの症例は鑑別漏れがあったなと気づいたり、毎回反省しています。

個人的な話にはなりますが、未だに車を所有していないため同期や先生方に早く買いなさいとせっつかれております。今はまだ外勤回数も少なく、電車ですぐ行ける距離なので何とか耐えていますが、ゆくゆくは車がないと厳しそうですね・・・5 年目以降に再び大学に戻って来るときには、もちろん小児科医としてもパワーアップし、あっと驚くような車に乗って帰ってきますので期待してください。ここまで読んでいただきありがとうございます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

→院内自販機のお釣りで 25 セント硬貨が出てきてびっくり、  
使った人がいるということ・・・？



小児科通信に関してご意見や感想があれば守田 (h-rita@med.uoeh-u.ac.jp) までご連絡ください。

～次号もお楽しみに～